



## 高度な救助技術を披露 消防士が全国大会へ

この種目の大会標準タイムは75秒ですが、大会では50秒台が当たり前、全国大会は40秒台を競います。消防士たちの情熱が大会をハイレベルなものに押し上げています。その技術は目を見張るほど高度なもの。無駄のない動きや芸術的な連携プレイは、日々の努力のたまものだと容易に想像できます。

今回出場する4人は一昨年前にチームを結成。昨年は県大会を勝ち進みましたが、全国大会で敗退。リベンジを果たそうと、個人練習を重ね、4月からは4人でほぼ毎日、1日3時間ほど本番さながらの練習を積み重ねてきました。練習の成果が実り、7月19日に行われた中国大会では、49秒495の好タイムをたたき出し、2位以内という狭き門をくぐり抜け全国大会の切符を手に入れました。

キャプテンの下村達也消防士長は「強みはチームワークの良さ。年が近いので何でも言い合えます。大会でもほとんど緊張せず、訓練と同じようにできました。全国大会ではタイムを伸ばして優勝したい」と話していました。(9)

出場する種目「ロープブリッジ救出」は、4人1チームの競技。向き合った建物に張られたロープ(23メートル)を渡って、要救助者役の1人を助け出すもので、最後の隊員がスタート時の建物に戻るまでのタイムを競います。ただ、早さだけではなく、道具やロープ結索などの安全性、現実性も審査され、救助技術の総合的な力が試されます。

この種目の大会標準タイムは75秒ですが、大会では50秒台が当たり前、全国大会は40秒台を競います。消防士たちの情熱が大会をハイレベルなものに押し上げています。その技術は目を見張るほど高度なもの。無駄のない動きや芸術的な連携プレイは、日々の努力のたまものだと容易に想像できます。



▲大会に出場する左から池田圭佑、清水一希、下村達也、藤田和希隊員



### 高い救助技術力を証明

消防士が地上7mで向かいの建物にいる救助者を助けて戻ってくるまでどのくらいかかると思いますか？人命救助のプロである消防士は、なんと1分もかからずに救助することができず。

この度、市消防本部消防士4人が全国消防救助技術大会(8月23日・宮城県)に中国地区代表として出場します。

### 0.001秒を競う

同大会は毎年開かれ、全国の予選などを勝ち抜いた消防士が14種目で救助技術を競う大会。猛練習を積んできたメンバーは「大会までに細かな技術の精度を磨いてタイムを伸ばしたい」と意気込みます。

## 編集後記

安来市の人口と世帯数 H29.7.31現在

人口合計 / 39,553人  
(男:18,952人 女:20,601人)  
世帯数 / 14,238世帯

- 資源保護のため、この広報紙は再生紙を使用しています。
- 広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
- 自治会宛の発送等につきましては、地域振興課(☎23-3067)までご連絡ください。

